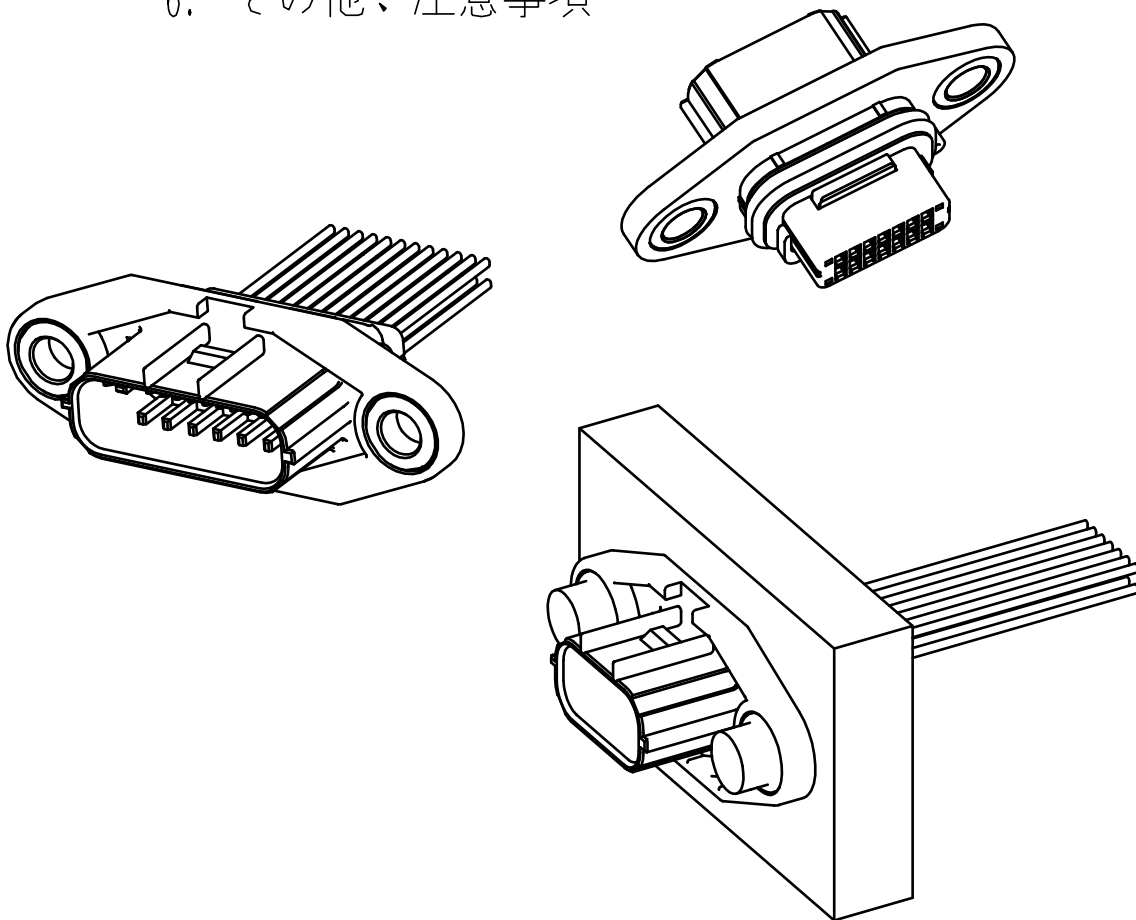


ZE064W-*P-HU/R(*) 取り扱い作業手順書

目次

- 1. 本資料の目的
- 2. 部品構成
 - 3-1. ハーネス組立作業手順
 - 3-2. ハーネスリペア作業手順
- 4. 筐体取り付け作業手順
- 5. 挿抜作業手順
- 6. その他、注意事項



	COUNT	DESCRIPTION OF REVISIONS	DESIGNED	CHECKED	DATE
△	4	DIS-T-00018568	TY. MOGI	AH. EDASHIGE	20230711
名 称 T I T L E ZE064W-*P-HU/R(*) 取り扱い作業手順書				HRS ヒロセ電機株式会社 HIROSE ELECTRIC CO., LTD.	
				APPROVED	HK. UMEHARA 20220105
				CHECKED	HH. TSUKUMO 20220104
				CHARGED	TY. MOGI 20211229
				WRITTEN	TY. MOGI 20211229
技 術 指 定 書 TECHNICAL SPECIFICATION				ATAD-T0670-00	△ 1 / 11

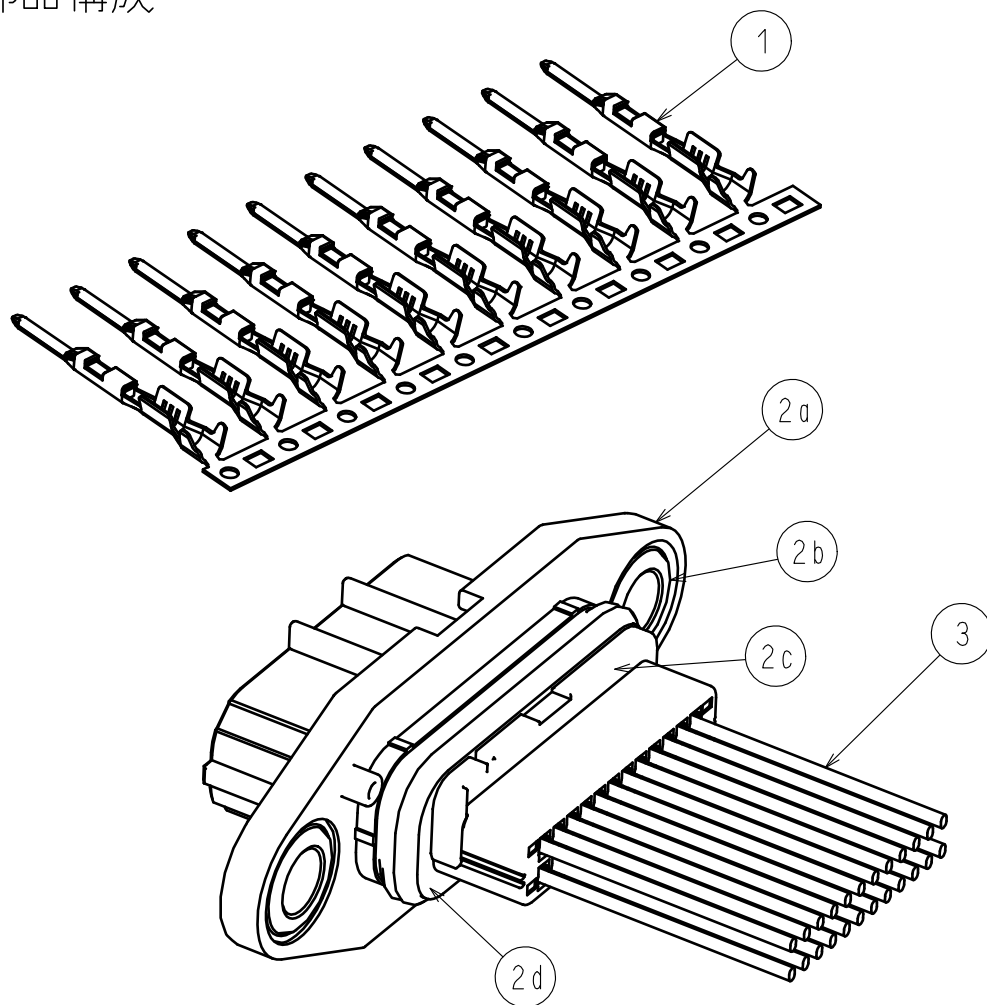
1. 本資料の目的

本資料では、ZE064W-*P-HU/R(*)及び適合端子の圧着、ハーネス組立、筐体取り付け、及び嵌合作業に関する説明を行っています。コネクタ使用前に必ずご一読いただき、またコネクタ使用中も、いつでも閲覧できる場所に保管ください。

本資料内で使用している絵や図は、代表製品のものであり、実際に使用されるものとは異なる場合があります。

本資料に記載の内容は、予告なく変更する場合がございます。

2. 部品構成

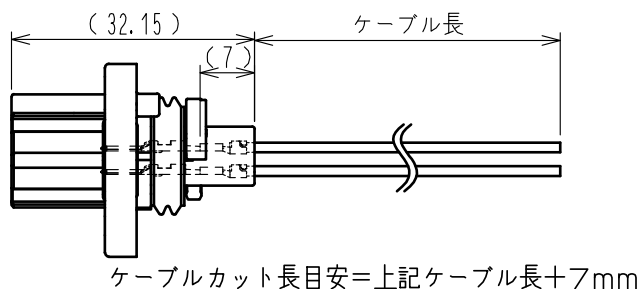


PART NO.	品目名称	ヒロセ製品名	ヒロセ製品番号	子部品(色)	部品点数
1	圧着端子	ZE064-2022PCF	CL0753-2002-0-00	単体部品(銀)	任意
2	オスコネクタ	ZE064W- 8DP-HU/R(A)	CL0753-2013-0-00	2a:ハウジング (黒もしくはグレー)	1
		ZE064W- 8DP-HU/R(B)	CL0753-2014-0-00		
		ZE064W-14DP-HU/R(A)	CL0753-2008-0-00	2b:カラー(銀)	
		ZE064W-14DP-HU/R(B)	CL0753-2009-0-00		
		ZE064W-24DP-HU/R(A)	CL0753-2003-0-00	2c:リテーナー(白)	
		ZE064W-24DP-HU/R(B)	CL0753-2004-0-00		
3	ケーブル	—	—	任意	

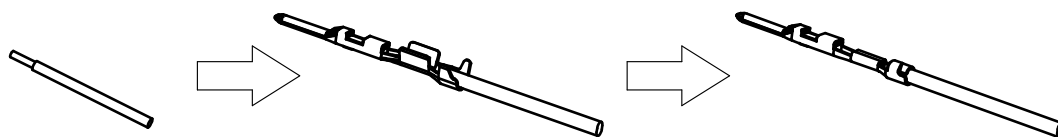
3-1. ハーネス組立作業手順

注：圧着に関する情報は、'ATAD-T0668-00' ZE064-2022PCF 圧着品質基準書 を参照下さい。
弊社工具で確認している適合電線及び圧着条件は、圧着条件表にてご確認ください。

- ①ケーブルをカットします。
カット長は、右記寸法を参考に設定ください。



- ②圧着品質基準書、圧着条件表に従い、ケーブルのストリップ、圧着をしてください。

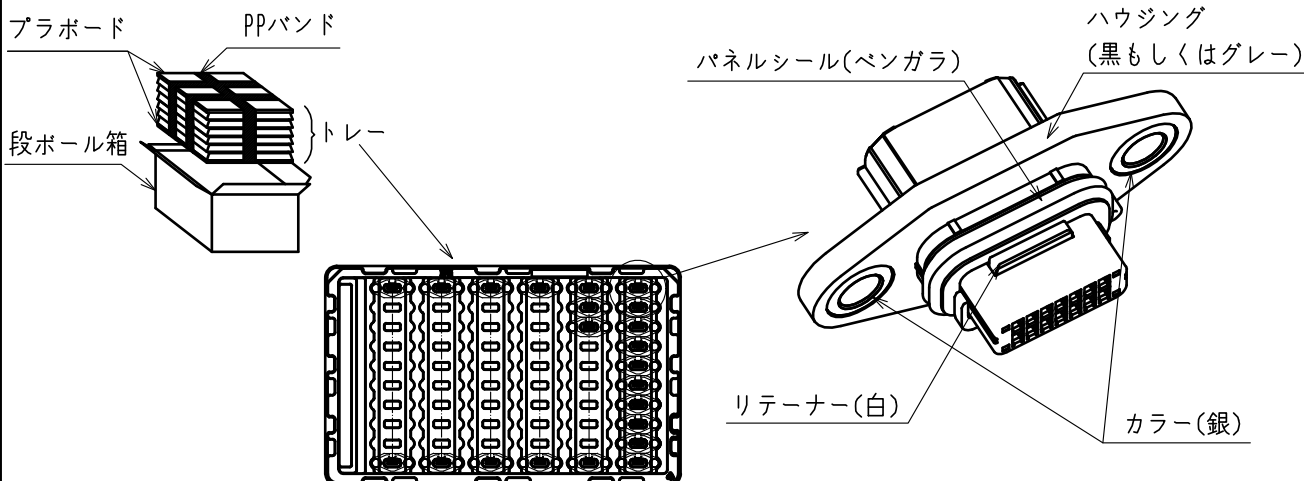


注：圧着工具は弊社専用工具を使用下さい。

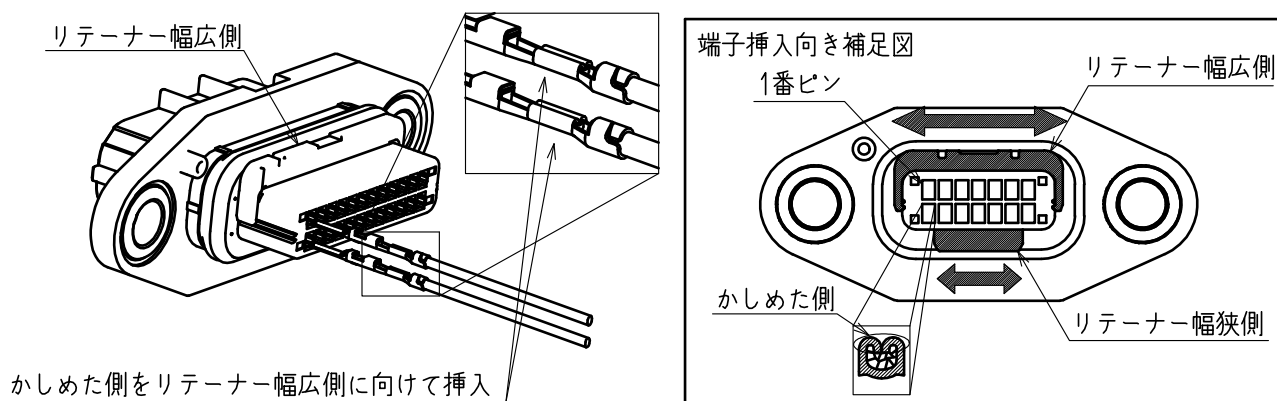
- ③オスコネクタをトレイから1つ取り出します。

※オスコネクタを取り扱う際は、パネルシール以外の場所を持って下さい。

また、パネルシール表面のオイルが、ハウジングとリテーナー以外のものと触れないようご注意ください。

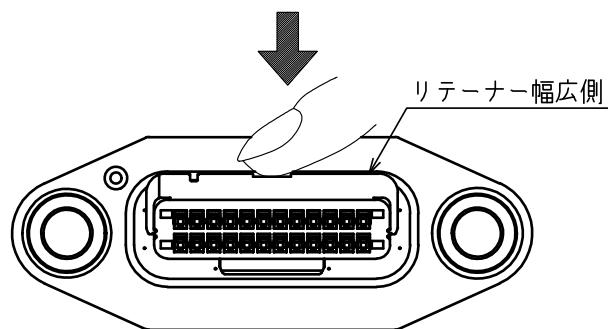


- ④圧着端子を、以下に示す向きでハウジングのキャビティに真っすぐ入れてください。
そのまま、カチッと音がして、ランスに係止されるまで挿入します。



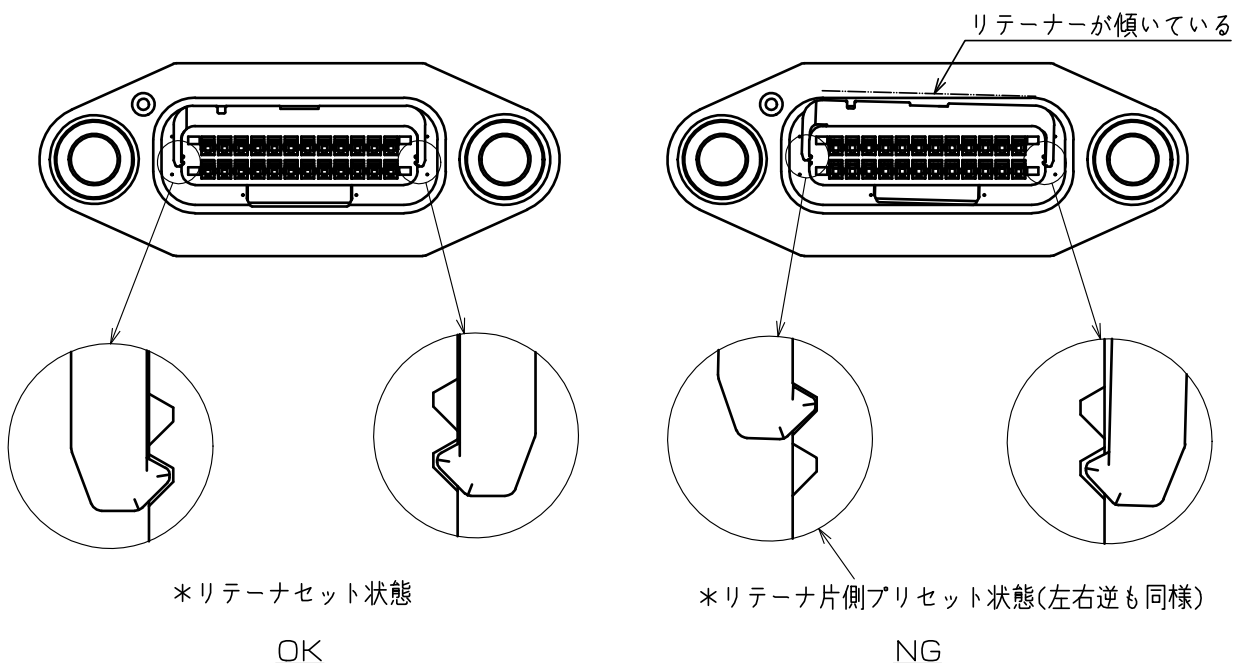
⑤プリセットされているリテーナを幅広側から押し下げ、カチッと音がするまで押し込んでください。

※パネルシールには、極力触れないようご注意ください



※リテーナセット後、正面から見てリテーナが傾いていないか確認してください。

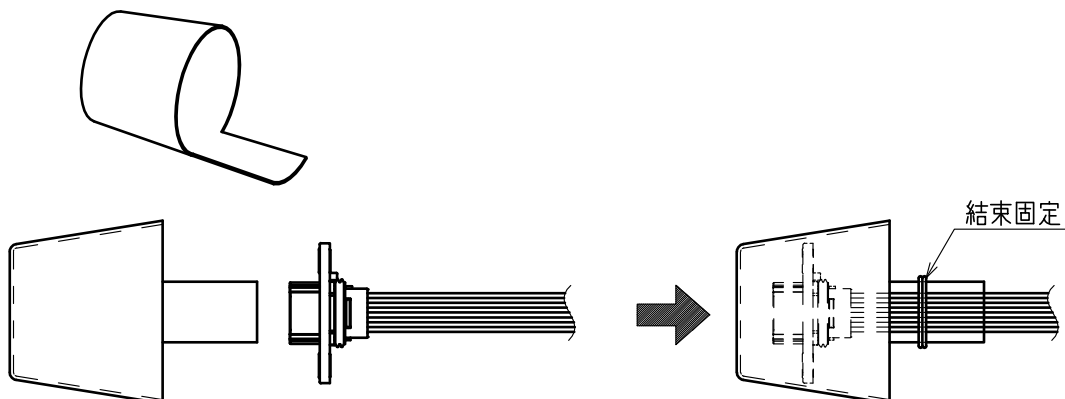
もし傾いている場合は、リテーナーを追加で押し込み、セット状態にしてください。



⑥パネルシールが他のものと触れないよう保護してください。

保護材は、梱包、輸送、保管時等に過度に変形しないものを選定願います。

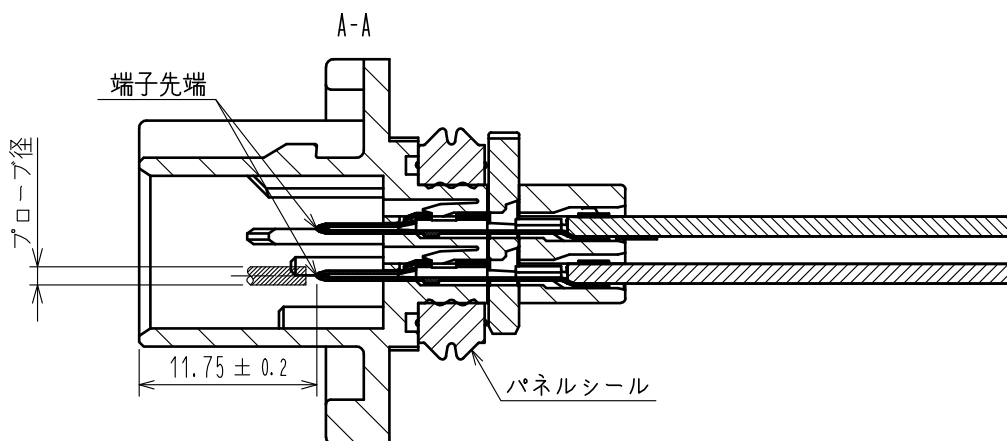
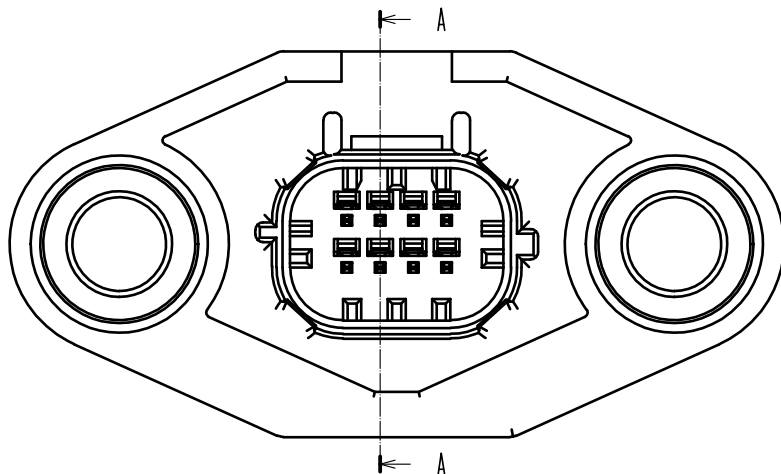
例：下図の様なプラスチックカップでコネクタごと覆い、カップが外れないよう固定する。



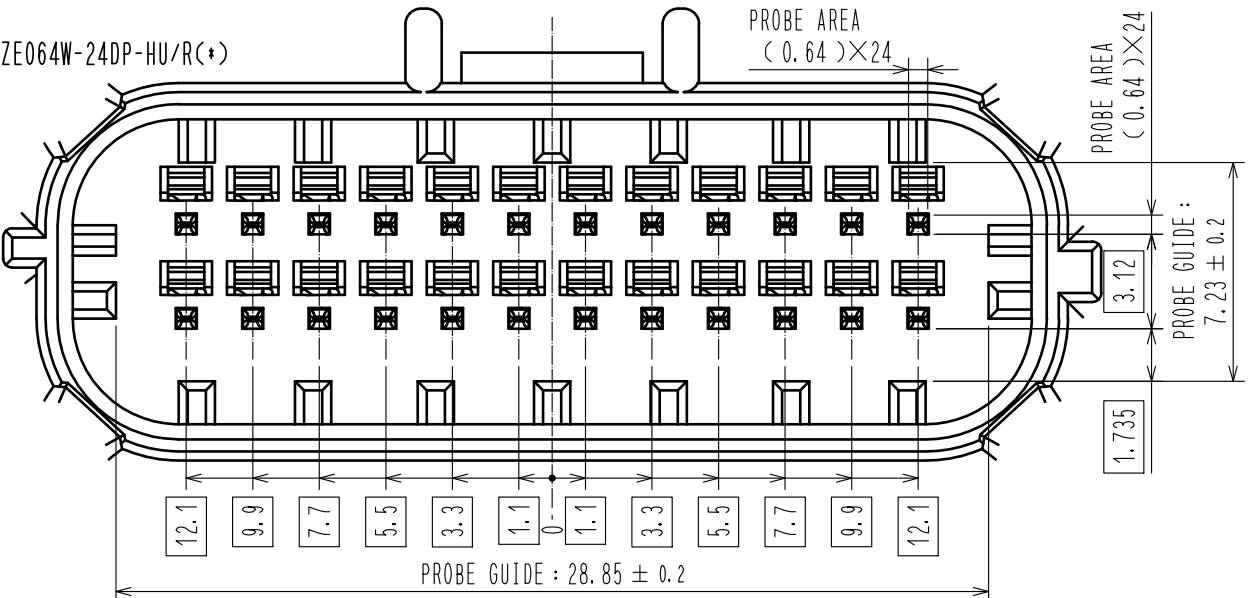
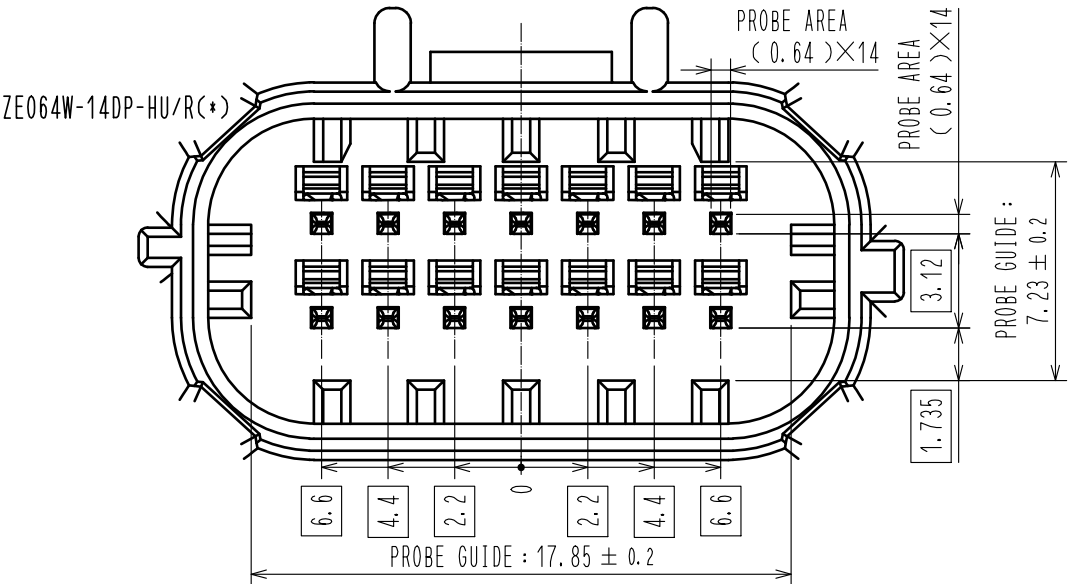
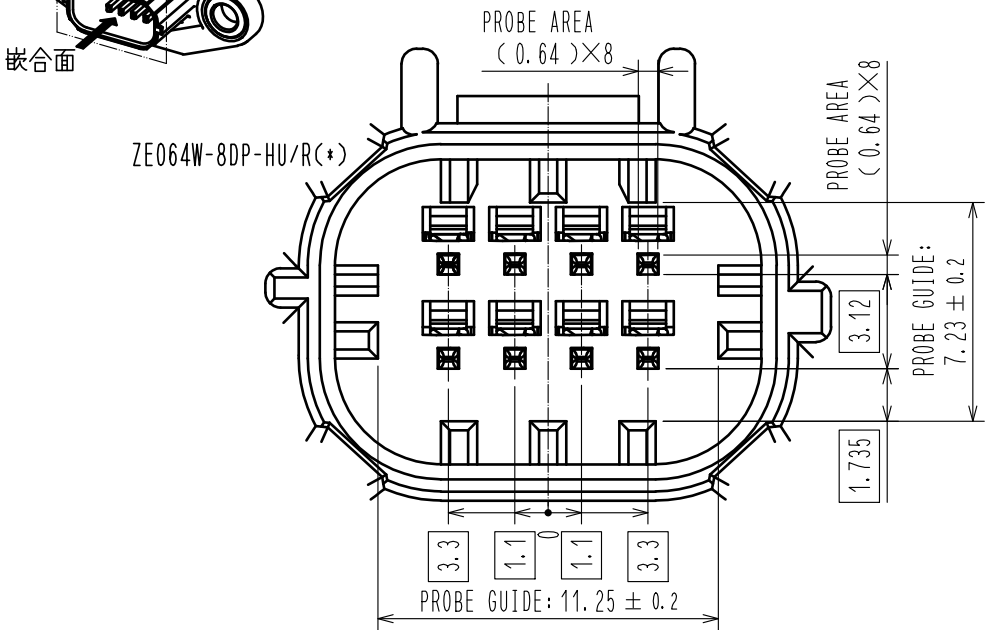
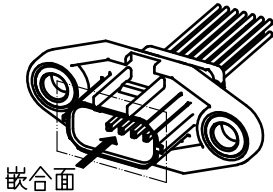
⑦電気検査の際は、テストプローブを端子の先端に当てて電気検査を行ってください。
またその際、コネクタのクランプ治具がパネルシールに触れないようご注意ください。
電気検査が終了したら、再度⑥工程に示すカバーでパネルシールを保護してください。

推奨するテストプローブの仕様は以下の通りです。

- ・径の目安 : $\phi 0.6 \sim 1.2 \text{ mm}$
- ・先端形状 : フラット
- ・めっき : 金めっき
- ・ばね反力 : 1 N Max.
- ・ストローク : 下図参照

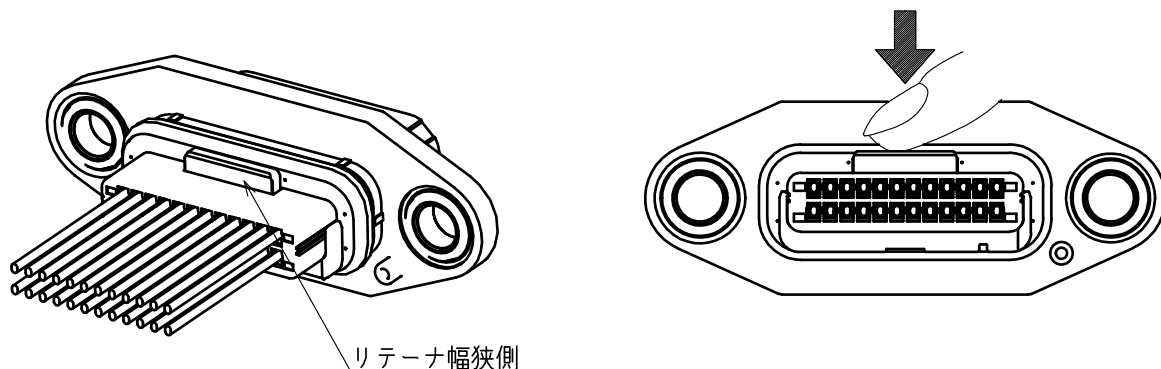


テストプローブは、嵌合面から見て以下に示す位置に配置してください。

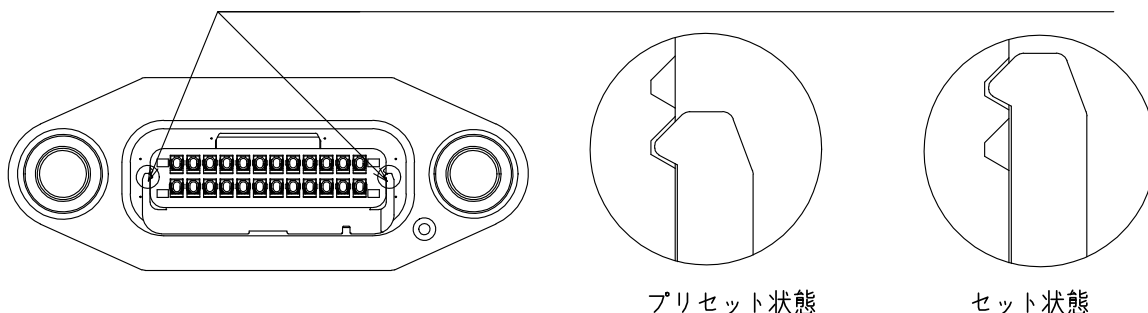


3-2. ハーネスリペア作業手順

①セットされているリテーナーを幅狭側から指で押し下げ、リテーナーをプリセット状態に戻します。



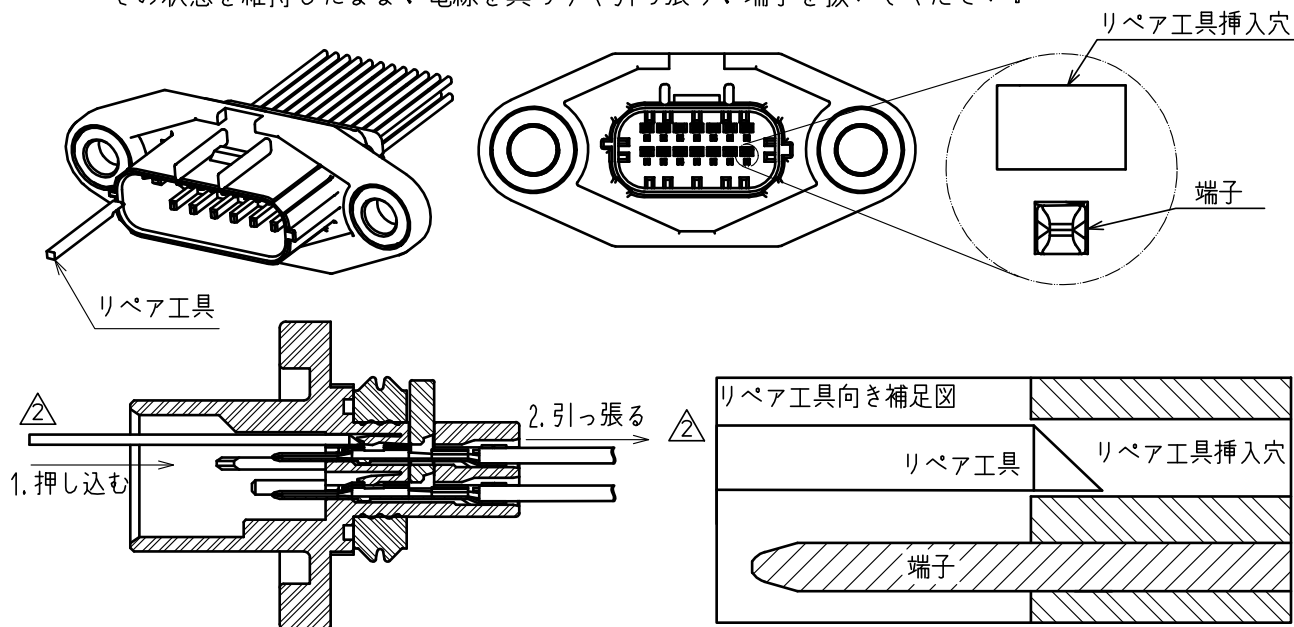
左右どちらもリテーナがプリセット状態になっている事を確認してください。



注．リテーナが移動し過ぎた際は、リテーナーの幅広側から押し戻してください。

②専用のリペア工具を以下に示す穴に挿入し、突き当たるまで押し込みます。

その状態を維持したまま、電線を真っすぐ引っ張り、端子を抜いてください。



注．リペア工具を差し込む際に端子に触れない様、ご注意ください。

注．一度リペア作業を行ったオスコネクタは再利用せず、新しいものをご使用ください。

圧着端子リペア工具品番

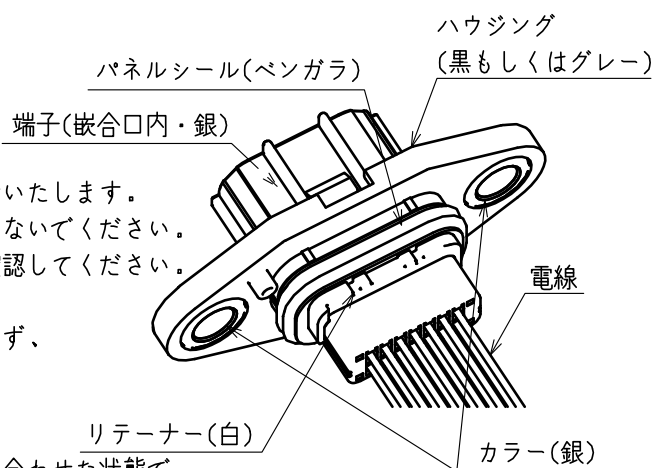
適用製品	リペア工具品名	リペア工具品番
ZE064-2022PCF(##)	ZE064-P/RE-MD	902-5150-0

(##) = 仕様番号

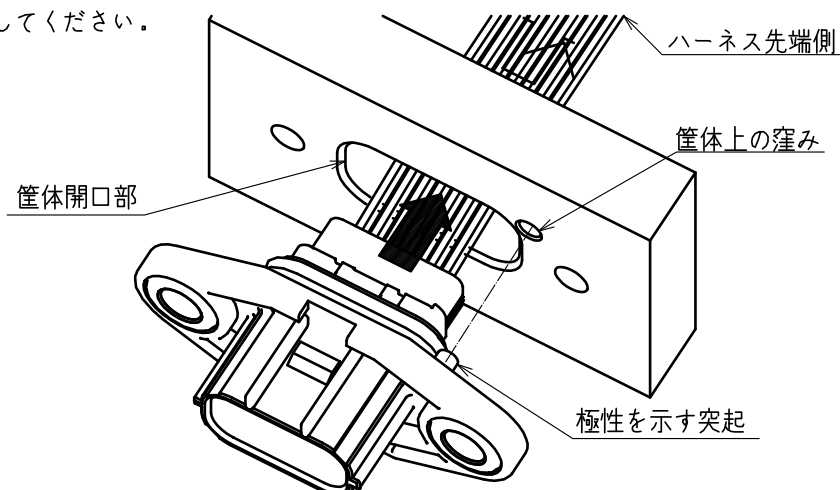
4. 筐体取り付け作業手順書

①ハーネス品を梱包状態から1つ取り出します。

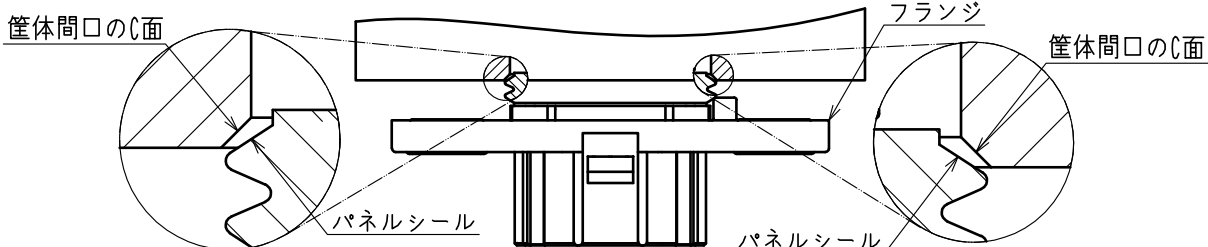
※ハーネス状態では、電線とハウジングを持つことを推奨いたします。
端子や、オスコネクタのパネルシールやリテーナーは触らないでください。
またパネルシール表面全面にオイルが滲んでいることを確認してください。
パネルシール表面のオイルが過度に失われている場合、
パネルへの装着時の摺動性が不足して正しく取り付けられず、
気密性が損なわれる要因になります。



②ハウジングの極性を示す突起の向きを、筐体上の窪みと合わせた状態で、
ハーネス先端側を筐体開口部に通し、オスコネクタのパネルシールが
筐体開口部に触れるまで挿入してください。



③パネルシールを、筐体間口のC面に軽く押し付けると、オスコネクタの位置が決まります。

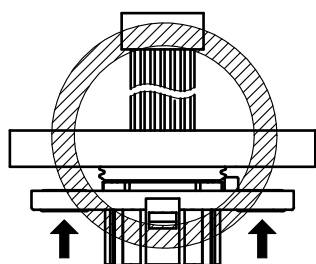


この状態のまま、オスコネクタのハウジングもしくはカラーを押し、オスコネクタを筐体間口に向かって
真っすぐに押し込み、オスコネクタのフランジが筐体に接するまで押し込んでください。

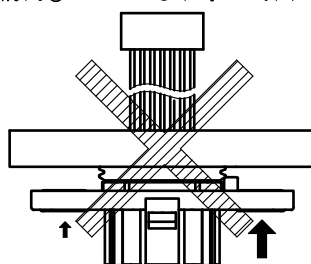
⚠上記挿入力が60Nを超える場合は、パネルシール表面の潤滑油が不足している恐れがありますので使用しないで
ください。パネルシールの変形を引き起こし、エア漏れの危険性が高まります。

※オスコネクタを斜めに押し込む、ハーネス側を引っ張って筐体間口に引き込む、等の作業を行うと、
オスコネクタに過度な負荷が加わり、破損等の要因になります。

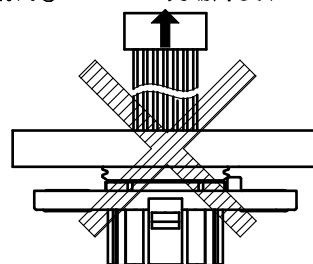
OK例：カラー両側を均等に押す



NG例①：カラーを不均一に押す



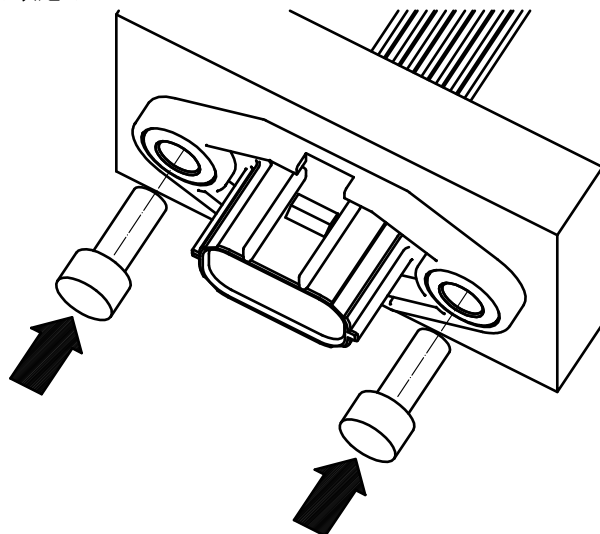
NG例②：ハーネス先端側を引っ張る



④オスコネクタから手を放し、二か所のカラーにM5サイズのねじを通し、締付けトルクMAX5.5N・mにてねじを締め、筐体に固定してください。

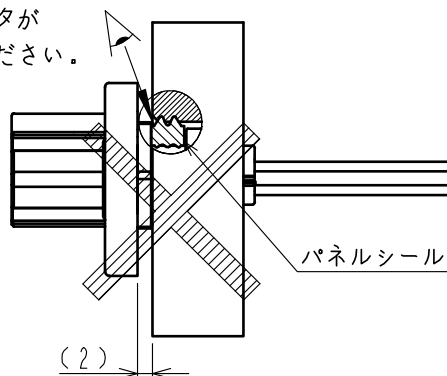
※M5ねじの種類は問いません。(六角穴付きボルト、六角フランジボルト等)

※締付けトルクは、コネクタ破損を防ぐための上限値のみ規定しており、推奨値、下限値はございません。
各社の規定に沿って設定ください。



- ⚠ ※オスコネクタから手を離した際、ねじを締める前に、オスコネクタが筐体表面から過度に浮き上がっている箇所が無いことを確認してください。
もし過度に浮き上がっている場合、何かしらの異常が発生している可能性がありますので、その場合は一度オスコネクタを筐体から引き出し、作業を最初からやり直してください。

浮き上がり量目安：2mm以下、または隙間から
パネルシールが見えないこと



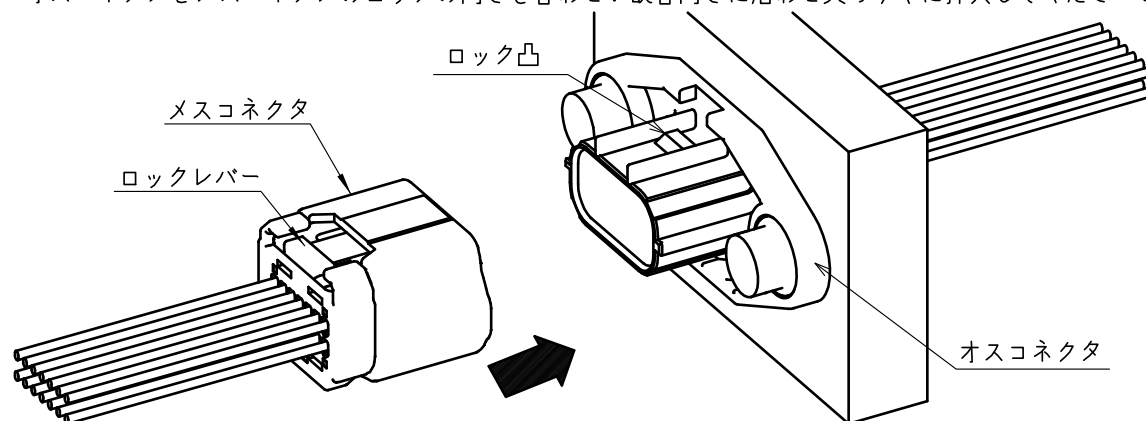
※オスコネクタの筐体への付け直し作業は1回までとし、同一筐体への連続した作業のみとしてください。
付け直し作業前に、パネルシール外観を確認し、傷や変形などがあった場合は、新しいハーネス品を使用下さい。
またオスコネクタの付け直しを2回以上行うことや、別の筐体につけなおす作業は、パネルシールへの過剰な負荷が加わることが想定されますので、その場合は新しいハーネス品をご使用ください。

5. 挿抜作業手順

①オスコネクタが取り付けられた筐体と、メスコネクタのハーネス品を準備します。

オスコネクタとメスコネクタのキーが同一であることを確認してください。

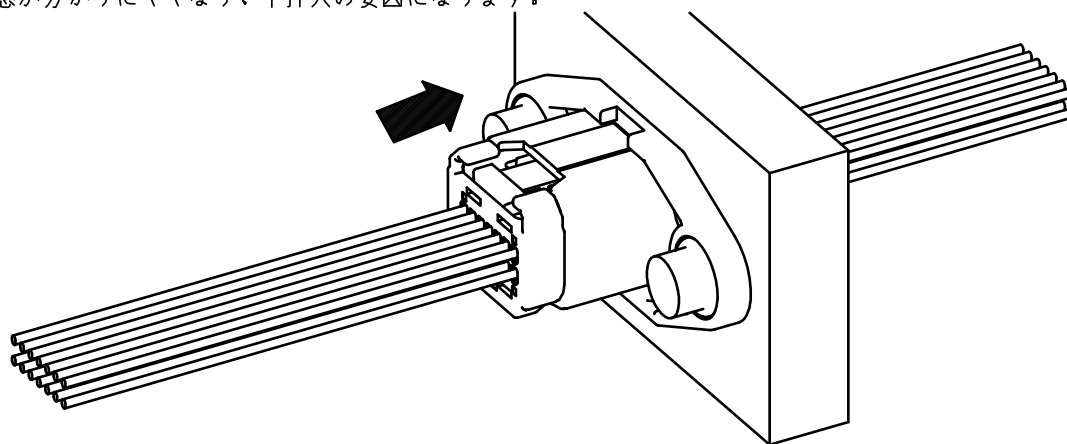
オスコネクタとメスコネクタのロックの向きを合わせ、嵌合向きに沿わせ真っすぐに挿入してください。



②コネクタ同士が突き当たるまで挿入してください。コネクタにロックがかかります。

※コネクタ挿入時、メスコネクタのロックレバーは触らないでください。

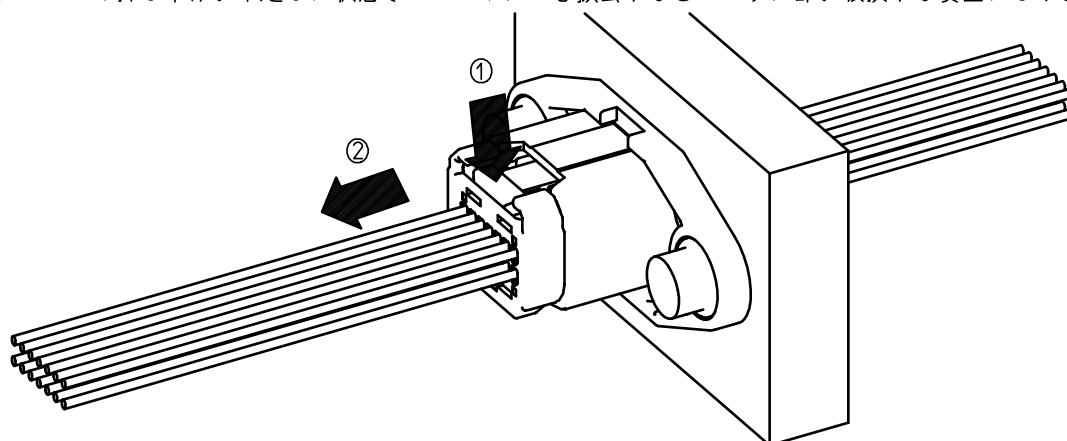
ロック感が分かりにくくなり、半挿入の要因になります。



③コネクタを抜去する際は、メスコネクタのロックレバーが突き当たるまで押し下げた状態で、

メスコネクタのハウジングを掴んで、嵌合方向に対しまっすぐに引き抜いてください。

※ロックレバーの押し下げが不足した状態でメスコネクタを抜去すると、ロック部が破損する要因になります。



6. その他、注意事項

- 1)端子接点部及びバレル内部には触れない様にして下さい。
- 2)端子に触れる際には、腐食防止の為なるべく手袋等を着用下さい。
- 3)端子の上に物を置いたり、端子を落下しますと変形や汚れが付着する危険がありますので
取扱いにはご注意下さい。
- 4)端子が絡んだ際は無理に引張らず、変形させないように慎重にほぐして下さい。
- 5)端子に触れる際は端子が変形しないようにご注意下さい。
- 6)圧着が完了したケーブルは、端子同士が絡まないように注意し、束ねたり重ねたりする際は
端子に外力がかからないようにして下さい。
- 7)大きな衝撃を与えない様、ご注意下さい。
- 8)埃の多い場所での保管は避けて下さい。
- 9)ワイヤーハーネスは床に置かない様にして下さい。
- 10)コネクタの変形、傷、端子の変形が発生する様な取扱いは避けて下さい。
- 11)ハーネス配索時は、コネクタ首下60mm以内の位置でクランプ固定することを推奨します。